

くれワンダーランド構想推進会議 第4回会議 摘録

1 日 時 平成31年3月25日(月) 13時30分～15時45分

2 場 所 呉市役所7階 757・758 会議室

3 概要・骨子

～ 事務局説明 ～

○ は構成員の意見

● は事務局(市・関係協力機関)の報告等

(1) 議題：呉市復興計画(案)について

【冒頭説明】 赤川 座長

- まず、呉市の復興計画の案について議論する。
くれワンダーランド構想を推進するに当たって、私たちが認識しておかないといけないことは、今の呉市にとってまず大事なことは、豪雨災害からの復旧、そして、復興であるということである。
- その上で「これまで以上に魅力的な呉への進化」ということを目指して、くれワンダーランド構想を進めていくという認識を、皆さんと共有していきたい。

<事務局から資料3を説明>

【呉市復興計画(案)について】 坂井 復興総室副総室長

- 資料3は、現在策定中の「呉市復興計画(案)」の要点を取りまとめたものである。
 - (1ページ「1 計画策定の趣旨」について)
 - 本計画は、平成30年7月豪雨災害により甚大な被害を受けた本市の復旧・復興の実現に向けた基本理念を示すとともに、本市の更なる発展を目指し、今後取り組むべき施策を体系的に定めた復興の指針として策定するものである。
 - (1ページ「2 計画の対象」について)
 - 本計画は、市全体を対象とし、特に大きな被害を受けた天応・安浦地区については、別途、地区計画を策定することとしている。
 - (1ページ「3 計画の期間」について)
 - 2018年度から2024年度までを計画期間とし、そのうち、発災からおおむね3年間を「復旧期」、発災から7年間を「復興期」としている。
 - (2ページ「4 計画の構成」について)
 - 本計画は、「基本理念」、「基本方針」、「復興に向けた取組」、「復興計画の推進に向けて」で構成している。

(2ページ「5 復興に向けての基本理念と基本方針」について)

- 本計画では、基本理念として、「災害に強い幸せで魅力的な都市を目指して」を掲げ、「住まいと暮らしの再建」、「災害に強い安全・安心なまちづくり」、「産業・経済の復興」、「今後の防災・減災に向けた取組」の4つの基本方針に基づき、豪雨災害からの復興に取り組んでいく。

(3ページ「6 復興に向けた取組」について)

- 3ページでは、計画全体の施策体系を示している。
4ページ以降で、基本方針ごとの施策の方向性と主な取組について記載している。

(4ページ「基本方針1：住まいと暮らしの再建」について)

- 「(1) 被災者支援」では、被災者の方々が、一日も早く被災前の生活を取り戻せるよう、生活再建に向けた総合的な支援を行っていく。主な取組は、右欄に記載のとおりである。
- 「(2) 子ども・子育て支援」では、子どもや子育て家庭、児童・生徒に対し、心身のケアや居場所づくりなどを行っていく。
- 「(3) 廃棄物・土砂処理」では、生活環境の保全や二次災害の防止などを図るため、被災家屋や災害廃棄物等の処理を迅速かつ計画的に進めていく。

(5ページ「基本方針2：災害に強い安全・安心なまちづくり」について)

- 「(1) 土木施設等の強靱化」では、被災した土木施設、農業用施設の早期復旧、改良復旧の実施にあわせ、砂防・治山ダム等の早期整備を進めるほか、進捗状況の見える化を実施していく。
- 「(2) 公共施設等の強靱化」では、被災した公共施設の早期復旧・改修を計画的に進めていく。
- 「(3) 上下水道施設の強靱化」では、施設の本復旧や強靱化を進めるとともに、浸水対策の実施など災害に強い上下水道の構築に取り組んでいく。
- 「(4) 交通基盤の強靱化」では、災害に強い交通体系を再構築するとともに、代替交通の確保、渋滞対策、防災拠点として機能する新たな交通拠点の在り方を検討していく。

(6ページ「基本方針3：産業・経済の復興」について)

- 「地域産業の復旧・復興」では、産業・経済が活力を取り戻すための取組に対する支援を進めるとともに、創意工夫で時代を先取る産業を創造できる環境を整備していく。

(6ページ「基本方針4：今後の防災・減災に向けた取組」について)

- 「防災・減災に向けた体制の強化」では、気象や避難に関する情報の伝達方法などの見直しや被災の経験を未来への教訓として継承していく取組を進めていく。

(7ページ「7 地区計画」について)

- 地区計画の策定に当たっては、地域住民等で構成するワークショップにおける復旧・復興に向けたまちづくりの方向性についての提案を基に、呉市復興計画検討委員会等の意見を踏まえて策定していく。

(7ページ「8 復興の推進に向けて」について)

- 「(1) 多様な主体との連携」に記載のとおり、市民の皆様、地域関係団体などとの連携により推進していく。
- 「(2) 取組の推進体制」は、昨年9月11日に設置した呉市災害復興本部に8つのプロジェクトチームを設置し、推進していく。
- 「(3) 取組の進捗管理」については、呉市災害復興本部で各事業の進捗管理を実施するとともに、必要に応じて事業の追加や実施時期の見直しを行う。

(今後の予定について)

- 本計画については、明後日27日に開催する復興計画検討委員会での意見を踏まえ、3月中に策定することとしている。

<意見交換>

- 「4 今後の防災・減災に向けた体制の強化」に関連しての意見である。
すでに関係の方々にはお知らせしているが、国・県・市と連携し、医療だけではなく、自衛隊や警察署などが一堂に会し、医療面からケアできる防災センターを、病院の中に作りたい。場所はあり、すでに見取図の設計まではお示ししているが、実現のためには、地域からの熱い要望もあるということが必要であり、強いエンジンを持って進めるためには、そういったプロジェクトチームであるとか、将来の防災構想の中に、この案を取り入れていただきたい。
- 今後、策定された計画の推進の中で、どういったことが考えられ得るのかということ
を、相談させていただきたい。 濱里副市長
- 3年後ぐらいが建設時期と考えている。
- 遠方から来られる観光客とか、インバウンドで呼ぼうということであるので、土地に非常に不案内な、彼ら第三者に対しても、安心できるような防災体制づくりが重要である。
例えば観光で言うと、3ページの「観光産業」、6ページには「観光客の呼び戻し」という文言があるが、安全安心をきちんとアピールしないと、本来の観光誘客ができないので、考慮いただければと思う。
- 復興計画の中では、観光という側面では「多言語化」は挙げていないが、「防災・減災の取組：情報の充実」の項目で、外国人や観光客に対応した「伝達情報の多言語化」を盛り込んでいる。復興計画検討委員会のメンバーでもある平見構成員から「市民センターの中で外国の方が困っている」という意見をいただいたこともあり、反映した。
坂井 復興総室副総室長
- 丁野構成員のお話は、「ちゃんと復興をこういうふうにやっているから、おいでいただいても安心ですよ」ということを、もっとアピールしてくれということである。
計画を作って皆さんにお知らせしていく段階で、そうした点も十分考慮していくことを、今、副市長と申し合わせたところである。 新原 市長
- 防災意識の啓発ということで、広島市の防災計画の変更の中では、避難時の声掛けなどについての修正があったようで、そうしたことも是非、今後の取組で検討いただきたい。

(2) 議題：前回会議後の状況報告について

<事務局から資料4を説明>

【せとうちskipについて】 呉広域商工会

- 前回会議で、菖蒲田構成員から御提案のあった「SNSを活用した観光客の獲得」に関して、呉広域商工会の取組を報告する。
- 呉市広域商工会の事業エリアは、呉市と合併した8つの町となっており、この地域は、レモンを中心とした柑橘や、水産物の牡蠣、タチウオ等、多くの農水産品と豊かな歴史・観光資源に恵まれた地域である。
- このため、呉広域商工会が目標としている「地域資源を活用した、もの・こと・ひとづくり」というテーマの中で、新商品の開発や販路開拓とともに、観光振興は、支援事業の大きな柱となっている。
- これらは、「せとうちskip」というコンセプトで従来から取り組んでおり、このデジタルマップは、前年度に作った紙ベースのマップをバージョンアップして、デジタル版として制作したものである。
- パンフレットの中にもあるQRコードやハッシュタグ「せとうちskip」で検索していただければ、8つの地域の隠れたグルメや観光スポット、更には、サイクリストや女子旅、Instagramのおすすめスポットなどを見ることができる。
- これらが瀬戸内海という世界的にも注目されるエリアの中で呉市として特に誇れるもので、インバウンド対応ということも含め、儲かる観光事業につなげていくことが重要であると考えている。
- しかしながら、商工会という一つの組織での取組では限界があり、発信力という点でも、非常に弱いところがある。これらのことから、現在、呉市のホームページにもリンクをさせていただいているが、前回会議で丁野構成員から御提案があった観光推進体制のように、呉市の観光について、共通認識を持って取り組める仕組み・体制づくりが必要であると、呉広域商工会としても、感じているところである。

【販路拡大セミナーについて】 寺嶋 産業部副部長

- 本セミナーは、本推進会議の構成員である臼井先生を講師としてお招きし、平成29年度から実施しているもので、「家業から企業へ」をキーワードに、経営力の強化に重点をおいた経営層向けのセミナーであり、毎回10名程度を受け入れ、約半年間、全8回の日程で開催している。
- セミナーの進め方としては、SWOT分析を始め、財務諸表、損益分岐点、ビジネススキームなどをテーマとする講義とともに、聴くだけでなく自分で考えさせ、気付きを与えるため、各テーマを自社の経営状況に落とし込み、現状や今後の方針などをまとめる個別のワークを行い、毎回、次回日程までの宿題としてこれをこなしていく、セミナーとしてはかなりハードな内容となっている。
- また、セミナーの期間中、臼井先生が受講生の各事業所を訪問、個別相談を行い、アドバイスをするフォローアップも行っていた。
- なお、最終日には、成果発表会として、これまで作成した資料をプレゼンし、自分に対する決意表明を行っている。
- また、平成30年度は、高知県で臼井講師が塾長を務められている「目指せ！弥太郎 商人（あきんど）塾」の修了者で大きく成長を遂げられている経営者の方々や、ローソンの元バイヤーをお招きし、特別講義も行ったところである。

- 本事業の効果としては、講義のテーマごとに、自社へ落とし込んだ資料を作成させるため、第一に、自社の分析や今後の方針が明確になることである。
- また、作成した資料を自社の営業で使用したり、銀行の融資資料として活用したりという効果もある。
- なお、資料下段の受講者の声にもあるように、受講生同士の交流も活発で、悩みを共有することによる仲間意識の醸成とともに、異業種の考え方が参考になることもあり、半年間を通じて、講師・受講生ともに腹を割って話せる関係になっていく。
- また、事業者同士によるコラボ事業も進行中であり、複数の受講生が連携して新商品の開発に取り組んでいる。
- そのほか、受講生からの依頼を受けて代理店として販売したり、物産展へ合同で出展したりすることもあるとお聞きする。
- 本事業については、臼井先生の力によるところが大きいですが、参加する中小事業者の取組に対する意識の高さ、情熱にも、非常に手応えを感じており、平成31年度以降も是非、継続して取り組んでいきたいと考えている。

(販路拡大セミナーの講師である臼井 構成員から補足のコメント) 臼井 構成員

- このセミナーは、前回会議でお示した「起業支援における段階的支援策」のピラミッドでいうと、一番上に位置付けられるものである。
- 第1に自分の事業を客観的に経営的視点で見直すということと、2番目に経営における必要知識を習得していただくこと、3番目に地域内外に広くネットワークを作っておいただくこと、4番目として、同じ目的を持つ仲間とコミュニティを作る、この4つの大きな目的で、高知県で同様な取組を行っており、今年10年目を迎える。177社、二百数十名の方のネットワークを作っている。横のつながりも大切だが、出来上がってきたら縦もつなげて、大きなネットワークがすでに高知ではできているが、それを呉版にカスタマイズして進めており、ちょうど2年目が終わったところである。
- 来年度、3年目をスタートする予定であるが、いままで18社の方が来て、そのうち7社が女性の方々である。女性の創業支援から始まって、ある程度、大きくなって、更に活躍していただけるための組織ができてきたかなと思っている。

<意見交換>

- せとうちskipのインバウンド対応は、どのような状況か。
 - 広域商工会としては、以前から観光支援事業として取り組んでおり、紙ベースであるが、御手洗在住のトム・コールトンさんという写真家の方に「Time Travel in 御手洗」という英語版の観光パンフを作ってもらうなど、取組をしている。
呉広域商工会
 - 9月から11月にかけて、JR西日本が、デスティネーションキャンペーンのプレイベントとして、宇品から三原まで75本の船を運航することになっている。御手洗と三之瀬にも寄港することになっているので、日本人が多いかもしれないが、そうした英語版の観光パンフレットも活用していただけると、非常に良い結果になるのではないかと思う。
新原 市長

(3) 議題：くれワンダーランド構想に向けた取組について

<構成員からの提案>

【スローライフでクリエイティブな仕事を求める企業の誘致】

- 2月14日付けの中国新聞に「流通システム開発販売のビジコムが今夏柳井市の廃校にサテライトオフィスを開設する」、「代表者が岩国市の出身の方で、海に見える立地が一番の決め手だった」という記事があったので、企業誘致について、改めて提案する。
- ちなみにこの企業は、8月に従業員5名で始め、最終的には従業員25名を東京から連れて来て定住させるという計画だと聞いている。
- この記事を読んで、呉がどうかを調べてみたところ、広島県の中山間地域振興課で「チャレンジ里山ワーク」というサテライトオフィスの誘致を行う取組があり、三原、庄原、江田島、安芸高田、大崎上島、神石高原は紹介されているが、呉がなかったので、どうしてかなと思った次第である。
- 呉市では、すでに他のやり方でやっているのかも知れないが、県がそういう取組を行っているのであれば、それに乗っかるのもいいのではないかと感じている。
- これまでいろいろ議論している中で、観光振興でUターン・Iターンをしてもらい、農業や漁業に従事する方々で呼び込むなどの取組もあるが、いろんな産業を盛り込むことで、より活気のある地域になると思うので、呉出身の方が経営している企業などに働き掛けるようなことをしてはどうかと感じた。

【インバウンドの強化策について】

（ ① 英語による情報発信の強化 ）

- 前回の会議で、NYタイムズの「今年行くべき52か所」の7位に「瀬戸内の島々」が選ばれたことに関する市の取組を質問したが、記事をじっくり読んで、改めて提案した。
- 内容は、岡山と香川で3年おきにやっている「瀬戸内国際芸術祭2019」があるということがメインであり、その後に、新幹線で1時間くらいで平和記念資料館がある、そこから東にクルーズ船の「Guntu」や水上飛行機の会社があるということが紹介されていて、残念ながら呉のことには触れられていなかった。
- そこで、「呉は外国人の方々にどのように受け止められているのか」ということをインターネットで調べてみたが、呉に関する英語の紹介記事はそんなに多くはない。例えば、尾道は、YouTubeにも英語で動画がアップされている。呉も、国内向けのビデオでは「呉氏」のビデオで、結構いいところが紹介されているので、それを英語版にするだけでも、外国人には受けるのではないかと考える。
- 英語化するに当たっては、話を聞いてみると、外国人には外国人の英語でないとだめだということであった。呉市も英語版のパンフレットなどを作っているが、そういったものの英語は「日本人の翻訳」という感じだと聞いたので、やはり、外国人に頼んだ方がいいのかなと感じる。

（ ② アクセス情報の充実 ）

- 次に、呉に興味を持ってもらえたら、次は呉へのアクセス方法も英語で簡単に検索できるようにする必要があると思う。特に、外国人に知られていない島嶼部へのアクセスにはバスが非常に良く、とびしまライナーなどが良いのだが、英語版が未整備なので、英語版の整備を運営会社をお願いしてはどうか。
- 併せて、1日周遊券や観光施設とのセット券なども、外国人向けに企画してもらえれば、すごく喜ばれるのではないかと。下蒲刈の蘭島閣美術館、松濤園、白雪楼は外国人にも喜ばれると思うが、ほとんど外国人に知られていない。

（ ③ “東の玄関口” の整備 ）

- 東の玄関口というものが、呉の人には意識されていない。実際に外国人がたくさん来ているのは東の方で、しまなみ海道にはサイクリストが集まってきており、竹原の大久野島はウサギの島ということで、外国人が大挙して来ているが、この人たちが船で大崎下島まで来てくれているかというところ、来てくれていない。フェリーはいっぱい走っているわけだから、そこを整理して、こちらからも入れるということをPRした方がいいのではないかと。そのためには、海運業者の方と連携した方がいいのではないかと。
- 特に呉の弱点は、宿泊施設が少ないということであるが、例えば大崎上島には清風館という温泉も有名な良い宿があり、また、今治まで行けば泊まる場所はたくさんある。しまなみ海道にも泊まる場所は増えているので、そういうところに泊まった人に、大崎下島まで来てください、そこから辿って行けば呉まで来られるという案内をすれば、楽しんでいただける。

（ ④ アクティブ・体験型観光の充実 ）

- 先日、呉市住宅政策課が開催した空き家対策セミナーで、下蒲刈島の梶ヶ浜でレンタサイクルなどの事業に携わりながら「ウルトラマラニック」を成功させた地域おこし協力隊OBの高島さんの講演を聞いた。いろんな取組をしておられ、是非、支援していきたいと考えている。特にレンタサイクルに関して言うと、高島さんが思い描いている「乗り捨て」や「配車」を実現して、港に行けばすぐに自転車に乗れるようにできれば、しまなみ海道で乗り捨てて船で大崎下島に渡って再び走り始めることができるので、すごく良いアイデアであり、

是非、支援してあげたいと思う。

【革新的な和食調理学校の誘致】

- 世界的に和食ブームであり、「呉和食カレッジ」を目指してはどうか。
- 調理学校の課程は2年が多いが、和食単独で1年というのはあまりない。「修行」ではなく「学び」という概念にして、実践型・実技中心の1年間として、短期間で和食の技術を習得させてはどうか。
- 高校生、30～40代の職を変えようという人、50～60代の早期退職者、外国人などを対象とし、受け入れる。
- 著名な和食のプロフェッショナルが呉に来ることによって、交流も生まれ、若者・中高年のチャレンジも応援できるのではないか。

＜意見交換＞

【スローライフでクリエイティブな仕事を求める企業の誘致】

- 我々の病院で先々週、若い先生二人が韓国から交流に来たので、呉焼きと焼き鳥に連れて行ったが、見せて紹介する英語の資料がない。細かなところまで自分が英語で話さないといけない。この二人は途中福岡で時間を作って、広島にも寄らない。英語だけではなく、中国語・韓国語も必要だ。
- 堂下構成員が御提案された「里山チャレンジワーク」と是非コラボレーションして、仕事をしたくてもまとまった時間働けないという人を、活用していただきたいと思う。中山間地域に住む人の働き口を増やすという意味でも、企業の誘致を行うというのはいいことである。潜在的に働きたいという方々がいるというのは肌で感じているので、場所にとらわれない働き方ということで、国が推進しているテレワークと併せて、何かできないか模索している。
- サテライトオフィスの取組「チャレンジ里山ワーク」については、市長からもいろいろ要望をいただいたところであるが、予算的な限りもあり、6市町に限って先行的に取り組んでいる状況である。
- 海や自然環境の良さというものは誘致の要素の一つあるが、全国で誘致合戦になっており、まず試してもらおう「お試しオフィス」であっても、非常に競争は高いという状況がある。Wi-Fi環境があるのは当然であり、どういうオフィスが用意されているのかが最も大きな要素である。
- このメニューではないが、神石高原町ではドローンに関連した企業誘致に取り組んでいる。また、安芸高田市では、「明日のチーム」という人事評価のモデルを構築する会社を誘致しており、同市内での、東京と同じ条件での就職先、子育てで離職した方の新たな就職先になり得る良い取組である。呉市からもそのような相談があれば、是非、一緒に取り組んでいきたい。

【インバウンドの強化策について】

- サイクルツーリズムについて、日本人のサイクリストは自分の自転車を持ってくる。しまなみ海道では、自転車に乗ってきて、そこで泊まれるというホテルもあり、観光とサイクリングがセットになっている。一方で海外では、ツール・ド・フランスで有名なフランスの方にお話しを聞いたが、「どこで休むか」ということも計画に入れて行動されるので、やはり皆さん、自転車を持ってくる。
- こうしたことから、レンタサイクルは、ターゲットが微妙なところにある。観光客の方々がちょっと来て、ちょっと乗るというのはいいかも知れないが、乗り捨てというよりも、自

転車を返すところに、お休み処やカフェ等のお金を落とすところが必要である。

- レンタサイクルだけではお金は落ちない。いかにお金を落とすのかという仕組みを、レンタサイクルの周りに置いた上で回っていただかないと、経済効果としては難しい面がある。
- 確かに自分で自転車を持ってくる外国人の方は白人系に多いが、しまなみ海道では、台湾の自転車メーカー「ジャイアント」がレンタサイクル店を出店しており、実際に走ってみてそれを利用しているアジア系などの外国人観光客は多いと感じた。例えば、仁方や安浦からレンタサイクルに乗り始めて、どこかの港で乗り捨てて、船で次の島に移動する、こういうやり方が出来れば、移動の手段として楽しめるので、そういうニーズもあるのではないか。
- また、お金を落とす場所というのは、確かにとびしま海道にはあまりないが、しまなみ海道では最近飲食のお店が増えており、外国人の方々が多く来られて、地域の中で自然にお休み処ができてくれば、活性化につながると思う。
- 自転車を持って来る人もいれば、自分もそうだが、ずっと自転車に乗るのは大変でも、景色が良く気持ちよさそうなので少しだけ乗りたいという人もあり、両方いると思う。情報発信をうまくすれば、ニーズはあるのではないか。
- 限られた地域内で、ガイドを付けてサイクルツーリズムを行うという手法も、全国的に増えている。東京都茅場町では、外国人を中心にかなり多くの利用があり、御手洗のような特色ある場所でメニューを考えてもいいかもしれない。
- しまなみ海道で頑張っているところは愛媛県と仲が良く、自転車に関する施策を広島県で作るとなると、難しい面がある。東西であれば広島県であるが、南北であれば各都市レベルでの連携になる。
- 自転車を積めるスペースがある乗り物は多くあるが、日本では歓迎されない。自転車大国のオランダでは、バスの前面に自転車を積んでいたりするが、日本でできるのかという問題がある。自転車の前輪を外せば、意外と簡単に積めるのかもしれない。列車に積むというものもあるが、日本の場合、改札があるから難しい。自転車専用の改札があれば解決するが、呉駅ぐらいの規模だと難しく、小さな駅ならできるかもしれない。
- デンマークでは、自転車ごと電車に載せられる。JR東日本で実証実験をするという話を聞いたことがある。
- 呉線でも、「サイクルトレイン」という取組を2011年に試験的に行ったが、その後は行われていない。
- 自転車に関していうと、健康づくり、安心して自転車で通勤・通学できるまちづくりという観点も、今後の大事な要素だと考えている。

【革新的な和食調理学校の誘致】

- 呉でやる場合、「なぜ呉で和食をやるのか」という理由付けが必要になってくる。
- 東京に寿司の学校があり、外国人のシェフも受け入れて、1か月で寿司職人にしてくれる。難しい6か月コースもあるが、1か月は外国人が多い。彼らは自分の国に戻って、自分のレストランで寿司も出せ、お客さんも広がる。そういうことを目的に来ている人が多いから、宿泊施設もセットされている。和食というのは6か月や1年でできるものではないので、逆に和食の中の何かの特化すると、ここだけのユニークな取組になるのではないかと。
- 創業支援や事業者のサポートをやっていく中で、人材不足問題が挙げられていて、新事業・新分野に進出する「第二創業」をしたい人たちについても、「今ある店に新しい従業員が入ってもらえれば」ということもあるだろうし、こういう学校が中央地区にできれば、まちの活性化につながる。叶ったらうれしいなと思う。

- 県の商工で和食・洋食のプロフェッショナルを育てる、スキルアップをしてもらうという事業をやっている。洋食については、フランスの一流レストランに2～3年派遣する。戻って、広島県で8年以上続ければ、行った費用を全部免除する。和食については、外国との交流事業の際に、レモンやカキを使った日本食メニューを披露してもらうために料理人の方と一緒にってもらって、腕を磨いてもらう。ただ、和食の業界は、伝統などがあり、なかなか調整するのが困難だ。「1年で一流」が難しい状況がある。
- 先ほどの寿司の学校について、1か月コースは、英語でも講義をするそうだ。だから、海外の人が入ってくる。6か月コースは、日本人が中心なので、日本人が多い。ほとんど素人の受講者はおらず、既にシェフをやっている方がさらに自分のレパートリーを広げるために来ており、値段も決して安くはない。自分に箔を付けて、自国へ帰り、寿司を出す。そういう特色のあるものなら、和食という分野でもできると思う。だしを取るのを基本とする和食では、やはり京都とかには負けてしまうので、難しい。
- 亀岡など寿司の握り体験ができるインバウンドが非常に増えている。4年間で20万人くらい、全部海外からで、そこまでいくとすごい。和食調理学校と体験という組み合わせは、たぶんどこもやっていないので、面白いのではないかな。
- 私は和食が好きで、自分で釣った魚を自分でさばいて食べ、また、職場も和食を提供する飲食店なので、身近に感じている。私も和食を習得するのは難しいというイメージがあるので、「修行」というのが今の子どもたちに合っているのかなというクエスチョンがある。「和食は難しい」という概念をちょっとずつ変えていくことができないかと思う。
- 市立呉高校で魚をさばく体験・授業というのをテレビで見た。市立呉高校以外の学校にも広げられないか。
 - 漁協の協力を得て、魚のさばき方教室をしている。豊栄高校時代に調理科があり、元々調理室が完備されており、衛生面など、安心・安全に実施できるということで、呉高校を選んでいる。小学校向けには、お魚教室というのを実施しているが、さばき方教室は出刃包丁を使うので、小中学校では危なく、高校生向けということとしている。産業部 松下参事
- 広島と仙台はよく比較され、「仙台は牛タン」とよく言われるが、輸入品も多い。だから地元の人あまり食べないが、観光客は食べる。中国地方の人たちは、食べ物に付加価値を付けることに対して正直過ぎるのかもしれない。海軍カレーのスタンプカードを見ると最高1500円というカレーがある。やり方によっては、とても高いカレーが作れる。また、カレーは何がいいかというと、文化圏が広いことである。
- 呉は、歴史的な経緯があるので、大和ミュージアム、原爆ドームなどは、生理的に受け付けてもらえないという外国人の方々もいる。そういう経緯のないインドやヨーロッパの方は来られるので、やりようによっては、カレーは良い商材になりそうである。
- 肉じゃがも良いかもしれない。肉じゃがとカレーは材料が同じ。最後にカレー粉を入れるとカレーになる。和食屋さんのカレーうどんのように、素材が同じで、いろいろなものを作れる場合は、工夫のしようがある。
- ただし、高い材料を入れないと、観光産業の中心とはならず、お好み焼きと同じになってしまう。穴子が入ったお好み焼きは見たことがないので、やれば良いと思う。観光客に向かって面白く、広島・呉らしいものでストーリーを作れば良いのではないかな。

(4) 議題：平成30年度のまとめ

<事務局から資料6・追加資料を説明>

【平成30年度 くれワンダーランド構想推進会議 意見の概要 と 取組の状況】 森下 企画部副部長

(~はじめに~ くれワンダーランド構想の推進に当たって)

- 第2回会議でお示しした資料を基に加筆したもので、上段の枠囲みの記載にあるとおり、くれワンダーランド構想は、市役所だけではなく、むしろ、市民の方々や民間企業等の方々を含めた呉市全体で、ワクワク・イキイキする活動が呉のまち全体に広がっていくことを目指す構想である。
- 「災害復興との関係性」であるが、現在、市役所がなすべき最も大事なことは、「豪雨災害からの着実で力強い復興」である。
その上で更に、本当の意味での復興、まちの再生を進めるためには、以前にも増して、これまで以上の魅力的な呉をつくっていくことが必要不可欠である。
その実現のために、くれワンダーランド構想を推進していくことが、非常に重要である。
- 「推進の方向性」について、呉市ではすでに、「まさにワンダーランド」というような、ワクワク・イキイキする活動が、たくさん行われている。
「追加資料」に記載しているのは、そうした活動のほんの一部であるが、このような活動を、各分野で、もっと広げていくことを「推進の方向性」としている。
引き続き、例1・例2に掲げているような「広がる仕組み」を念頭に、幅広く、御意見や御提案を交換いただきたい。

(1 観光振興 (1) 観光コンテンツの充実)

- 主に体験型観光や、ロケツーリズム、クルーズ観光などについて、様々な意見・提案をいただいた。
- 平成30年度の成果として、①にあるとおり、呉鎮守府開庁130周年プレ事業として、青山クラブ及び桜松館の窓枠に、アニメ映画「この世界の片隅に」の様々なシーンなどを掲示する取組を開始したところである。併せて、この取組をSNSで情報発信し、呉市のインスタ映えのポイントとなるように取り組んでいる。
- 平成31年度に向けての検討状況であるが、大きく4点、
 - ① 新たな観光コンテンツの育成 (やぶ、伝統行事等)
 - ② ロケツーリズムの推進
 - ③ 夜型観光の推進
 - ④ 呉港へのクルーズ客船誘致を挙げている。
- このうち、「① やぶを始めとする新たな観光コンテンツの育成」については、6月に開催される、近畿広島県人会のアトラクションで「やぶ」を紹介できるチャンスをいただいたところである。
- また、「② ロケツーリズムの推進」については、原作者のこうの史代さんを始めとした皆様に協力いただきながら進めている。本年中には、長尺版の映画「この世界の (さらにいっつも) 片隅に」の上映が予定されており、相乗効果を目指し、皆様からも情報提供・協力をいただきたいと考えている。

(1 観光振興 (2) 情報発信の工夫)

- これについても、たくさんの御意見をいただき、また、先程の「(1) 観光コンテンツの拡充」にも、深く関連する事項である。

- 平成30年度の成果として、

- ① SNSを活用した観光PRの展開
- ② 呉のデザインをもっと使いやすく
- ③ Google maps - my map を広げる取組

という、いずれも、市民の方々や民間企業の方々に広げていただく取組に着手したものである。

このうち、①に記載の「フォトジェニックレ」では、来年度は「日本遺産」を重点テーマとするほか、「(1) 観光コンテンツの拡充」での検討を基に、体験型観光についても積極的に情報発信していく。

- 平成31年度以降の取組の検討状況については、大きく2点、

- ① 市全体で連携した情報発信
- ② インバウンドに対応した情報発信

を挙げている。

- このうち、「① 市全体で連携した情報発信」については、今年度着手した取組の強化である。すでに、「フォトジェニックレ」において、呉工業高等専門学校、呉広域商工会、広島国際大学、広島銀行の皆様から御協力をいただいております、こうした連携を更に広げることができればと考えている。

(1 観光振興 (3) 新たな観光推進体制)

- 呉のまちの観光を、市役所だけではなく、呉市全体で進めていくという御意見、御提案で、くれワンダーランド構想の考え方に重なるものである。

- 平成30年度の成果である

- ① 観光未来塾
- ② 公開講座の開催

そして、平成31年度予定の

- ① 連続講座・タウンミーティングの開催

のいずれもが、すでに市役所で予算化した事業で、呉市顧問にも就任いただいている丁野構成員にお力添えをいただいている。なお、先ほど説明した「フォトジェニックレ」は、「観光未来塾」の中で提案されたもので、塾生自ら事業化に取り組んだ成果である。

(1 観光振興 (4) 施設や交通の整備)

- これまでの会議では、「道の駅・海の駅」、水上バス、スカイレール等というハード整備に係る御提案や、「歩いてもらえるまち」について、あるいは、「青山クラブは市民の意見を聞きながら検討すべきではないか」という御意見・御提案をいただいた。

- 平成30年度の成果として、先程も説明した、

- ① 青山クラブ等の景観向上

を挙げている。この取組に当たっては、市民がワークショップで議論し、原画の提供交渉もワークショップの参加者で行っていただいたものである。

- 平成31年度の取組の検討状況として、

- ① ソフトメニューを活用した海洋観光拠点の強化

を挙げている。

「海の駅」を始めとする海洋観光拠点の活用促進のため、国のソフトメニューにある「みなとオアシス」や「マリンチック街道」などの指定に向け、関係者とともに取り組むこととしている。

- そのほか、ハード整備を伴う事業については、例えば呉駅周辺地域の総合開発などについては、今後、関係者を含めて、より具体的に検討を進め、また、そのほかのハード整備を伴う事業についても、費用対効果、財源などの課題を整理しながら情報収集を進めていく。
- なお、「道の駅」については、12月18日、第一人者の杉崎氏に御講演いただき、情報収集、情報共有、啓発を行ったところである。
- また、呉駅周辺の総合開発についても、明後日3月27日に、懇談会の提言内容を広く、分かりやすく知っていただくため、フォーラムを開催することになっている。都合の許される方は、是非、参加いただきたい。

(2 創業支援 (1) 継続的な創業支援)

- 皆様からは、「息の長い支援」、「段階的な支援」などについて、多くの御意見・御提案をいただきました。
- 平成30年度成果としては、すでに説明した
 - ① 販路拡大セミナー
 - ② 起業家支援プロジェクト
 を実施した。
- 平成31年度については、
 - ① リノベーションまちづくり事業
 - ② 段階的な創業支援に係る官民プラットフォームの構築
 - ③ 広島大学呉サテライトとの連携
 の3点を挙げている。①のリノベーションまちづくり事業については、すでに予算化し、準備に着手している。
- このうち、「② 段階的な創業支援に係る官民プラットフォームの構築」については、第3回会議で臼井構成員からお示しいただいた「起業支援における段階的支援策」を参考にさせていただいた。
- 具体的には、金融機関や学術機関で実施されている創業支援の取組がどのステップに該当するか一覧できるイメージ図を作成し、各機関で共有・情報発信をするプラットフォームの構築に取り組むこととした。

(2 創業支援 (2) 女性の創業支援)

- 会議では、「女性の創業の視点は男性の起業とは違う」、「女性起業家の交流の場が必要である」などの御意見・御提案を多くいただいた。
- 平成30年度は、「① 公益的ビジネスに係るまちづくりセンター等の貸館利用料の負担を軽減」する取組を挙げている。
 公益団体の登録の審査時に、活動内容を詳しく聞き取り、広く公益性が認められる場合には、短時間の貸館利用料の減免対象としていく。
- 平成31年度の予定としては、
 - ① 女性の創業支援プラットフォームの構築
 - ② 女性創業家のネットワークづくり
 - ③ リノベーションまちづくり事業
 の3点を挙げている。
- このうち、「① 女性の創業支援プラットフォームの構築」については、先ほどの「段階的な創業支援に係る官民プラットフォームの構築」と同様、関係協力機関の御協力もいただきながら、取り組んでまいりたい。また、「② 女性創業家のネットワークづくり」についても、関係協力機関等と連携し、女性の創業家の方々が集う場づくりを進めることとしている。

(3 公共空間の利活用)

- 御意見・御提案の概要は、道路、公園、公共施設の空間の活用を推進して、賑わいを創りやすくしていきたいというものである。
- 平成30年度の成果としては、
 - ① 公共空間の利活用に係るミーティング
 - ② ユニークベニューの取組を挙げている。
- このうち①については、都市再生推進法人制度により公共空間を利活用したい方々と、市の関係各課とで2回のミーティングを開催しており、3月27日にも開催する予定である。
- 平成31年度については、
 - ① 公共空間の利活用に係るミーティングをワーキンググループに移行
 - ② 公募・サウンディングの実施検討
 - ③ ユニークベニューの展開の拡大を挙げている。
- このうち①については、今年度開催したミーティングをワーキンググループに発展させ、意見交換を進めてまいりたいと考えている。
また、その検討の熟度を踏まえて、②にあるように、都市再生推進法人の指定等について、公募やサウンディングの実施を検討していく。

(4 大学、研究機関等との更なる連携、誘致等)

- 各大学との連携やオープンデータを活用した研究機関の誘致等について、御意見・御提案をいただいた。
- 平成30年度の成果として、赤川構成員から「広島大学を呉に」という御提案、また、御尽力も頂き、平成31年1月に市役所に「広島大学呉サテライト」を設置した。
今月開催した設置記念シンポジウム・公開講座へは、この場にいる皆様も含め、多数の方に来場いただいた。
- 平成31年度については、3点、
 - ① オープンデータの取組
 - ② 大学、研究機関等との更なる連携
 - ③ 呉市の強み「健康づくり」を活かした連携の検討を挙げている。

<意見交換>

- 追加資料の「世界に誇れる交流都市への発展」について、当院が国際学会を毎年やっております、10か国50人程度で、もう12回目になる。「世界に誇れる交流都市」の活動ととらえてもらい、呉市民にもっと知ってもらいたい。
 - 追加資料に項目を追加させていただく。 企画部 近藤部長
- 7ページで「女性やプラチナ世代の創業でみられるコミュニティビジネスなどについて、公益団体として登録できるようになった」ということで、ありがたいと思う。こうした気運を高めるためのセミナーということで、創業支援プラットフォームよりハードルの低い何かを考えてほしい。
- 子どもが熱を出しても、誰か代わりがいるようなチームを作れば、潜在労働力の方でも継続的に働ける。在宅ワークやいろんな働き方ができることを周知するセミナーなど、細く長く働き続けられるようなプラットフォームを作るための支援をしてもらえたら、救われる方がいると思う。

- 起業家同士というのは確かにハードルが高いかもしれない。
起業でなくても、女性の方が集まって、「趣味的なことに付け加えたことができるのではないか」とか、「お互い助け合ったりできるのではないか」とか、気軽にいろいろな工夫やアイデアが出るような取組を、来年度、やっていこうということになっているので、資料では「起業家同士のネットワーク」とは書いているが、実際に運用するときはそういうふうにとと思う。 市長
- 本日の御意見と資料6との関係については、座長と相談をしながら整理させていただきたい。 濱里副市長
- こういったことは大事だと思うので、市の行事もそうだが、金融機関、商工会も、光井構成員が言うような、女性・お母さん方の意見を反映できるような場をいろんな所でできるようにみんなで努力するようにお願いしたい。 市長
- 今日の議論も踏まえて追加してもらえるとという意味では、企業誘致も直接触れられていないが、最後の「大学、研究機関等との更なる連携、誘致等」の中に先端技術を持っている企業の誘致も含むニュアンスなのか。
- 現時点では、資料には入っていない。
 - サテライトオフィスは、非常に大事な考え方なので、座長と相談して工夫させていただく。 市長

(5) 議題：平成31年度の進め方について

<事務局から資料7を説明>

【平成31年度 くれワンダーランド構想推進会議 スケジュール (案)】 森下 企画部副部長

- 大きく2点あり、1点目は、全体会議を8月と3月ごろの2回程度開催することを考えている。2点目は、全体会議とは別に分野別ワーキンググループを設けて、機動的に検討を進めることを考えている。資料には5グループの案を示しているが、構成員の皆様の意向を伺いながら、調整してまいりたい。
- 補足が3点あり、1点目は、各ワーキンググループは、構成員3～5名程度と関係協力機関で構成すること、2点目は、ワーキング会議は、3～5回程度開催し、適宜メール等で作業を進めること、3点目は、事務局は各分野の関係課を主管課とし、企画課その他関係課で構成すること、この三つを骨子として考えている。

<意見交換>

- 事務局説明のとおり、来年度の推進会議は2回、ワーキングを設置して、そのテーマごとに作業を進めていって、構成員の意見や提案をいただく、各構成員には希望を聞いて、各グループに入らせていただくということがポイントである。
- 確認すると、我々、構成員を各分野のワーキンググループに配置し、次の会議までに、ワーキングで分野ごとの意見交換をして、次の会議に臨むということによろしいか。
- 大枠はそのとおりである。また、ワーキンググループで取り扱うテーマの性格によって、会議形式が適する分野と、実働を進めていくことが適する分野とがあると思われる。そのため、ワーキングごとに、進め方を含めて御相談してまいりたい。 濱里 副市長

<その他 ～ 今回の会議全体を通じての意見 ～>

- 復興計画について、7月の豪雨災害で呉市のインフラが災害に弱いというイメージができたことに対して、「単なる復旧ではなく、同じクラスの豪雨が来てもびくともしない形にしてほしい」と言ったところ、今回、復興計画(案)を見ると、まさにそのとおりの内容で、3か年で復旧、トータル7年で復興、もっと強い呉市をつくり、安心して呉に来てくださいという計画を聞かせていただき、ありがたく思う。
- 「和食」や「カレー」の話があったが、小イワシの刺身や天ぷらなど、呉に来たら食べられるおいしいものがあると思うので、観光面のキーワードにして、皆さんの知恵を出していけば、より良いものになるのではないかと。
- 自転車が載せられる観光タクシーやレンタカーなどを各駅に置けば、少しだけレンタサイクルに乗りたい人も乗れる。蒲刈やその先の島は交通の便が悪く、観光に来て電車を1時間待つというのももったいないので、タクシーが頭に浮かんだ。
- 和食の話について、お魚教室で教えている同級生から、「漁業は、育てる方向にシフトしていかないと、正直、苦しい」という話を聞いて。育てた魚に特化した調理学校があっても面白いのかなと思った。ゆくゆくは地元に住み続けてくれたり、若い人がどんどん入ってくれることにつながったらいいと思った。

＜市長挨拶＞

皆様，4回にわたり議論をいただき，ありがとうございました。

引き続き来年度も，了解いただいたスケジュールで進めさせていただきたいと思います。

報告（資料6）につきましても，若干，御指摘いただいた点を修正いたしますが，大筋で認めていただきました。

市役所だけが主導するのではなく，むしろ市民の方や民間企業等において，これまでにない新しい視点や大胆な発想で，自主的・主体的に取り組まれているワクワク・イキイキする活動が，呉市全体に広がっていくことを目指すということで，ワンダーランド構想にお力添えいただき，本当にありがとうございました。

また，関係協力機関の皆様も，4回にわたり，お付き合いいただき，ありがとうございました。こうやって意見を聞いていただき，市役所や構成員の皆様と一緒に，ワクワクした呉になるよう，また，呉駅周辺地域の総合開発や青山クラブなど，別の会議で呉市が主体的に関わっていくものと相まって，すばらしい呉市になるようによろしく願います。

来年度も皆様，よろしく願います。

【閉 会】